



将来の旭市を担う子どもたちのために 旭市学校再編基本方針の概要(前編)

旭市では今後の人口減少や学校施設の老朽化を踏まえ、子どもたちにとってより良い環境となる、学校のあり方について官民協働で検討してきました。そして、令和3年3月に「旭市学校再編基本方針」を策定しました。その内容を前編・後編の2回にわたって紹介します。

なぜ学校再編が必要なのか

(1) 児童生徒数の減少による教育効果の低下

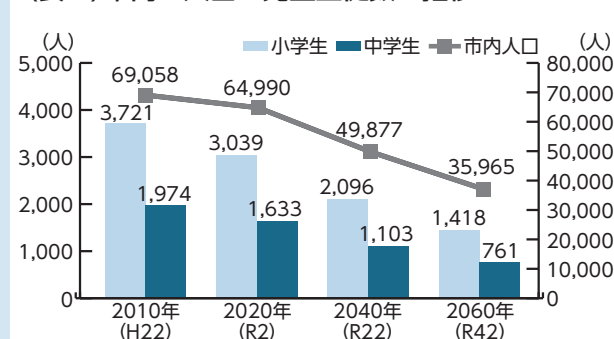
旭市の人口は、40年後の2060年(令和42年)には約29,000人(約45%)の減少が見込まれています。児童生徒数についても同様に、2060年には約2,500人(約53%)の減少が見込まれています。(表1)

(2) 施設維持費の増大

20校の小中学校の建物は老朽化が進んでいる反面、今後の市の財政状況を踏まえると、全ての学校を健全に維持していくことが難しい状況となってきます。

そのため、子どもたちが安全で等しい教育を受けられるように学校の再編が必要不可欠となっています。

(表1) 市内の人口・児童生徒数の推移



※2040年、2060年の数値は、国立社会保障・人口問題研究所の推計を基に算出した推計値です。

学校再編の基本方針

上記の必要性を踏まえ、以下の4つの基本方針を定め、学校再編を進めていくこととしました。

- (1) 教育環境の公平性(教育の機会均等)／学校規模の地域格差を是正し、等しく教育を受けられる環境づくり
- (2) 義務教育施設の充実／「選択と集中」による充実した教育施設の整備と維持を図る
- (3) 地域の理解とつながりの推進と教育の一貫性／地域の理解を深め、地域に根付く新たな学校として一体感を醸成する
- (4) 弾力的な学校の選択／実情に応じた学校の学区の弾力化や、通学時間・距離を踏まえた通学手段を検討する

学校の適正規模・適正配置

小中学校の適正規模(学校の規模)や適正配置(学校の場所)については、文部科学省と千葉県から基準が示されていますが、旭市では学校再編に伴い、将来的な学校規模の縮小にも対応できるよう、さらに具体的な適正規模・適正配置を定めました。(表2)

(表2) 文部科学省・千葉県と旭市が定める
適正規模・適正配置

● 適正規模(1つの学校で標準となるクラス数など)

基準	小学校	中学校
文部科学省・千葉県	12~18学級 ※学年により1学級35人または38人	
旭市	児童数の下限を1学年20人程度	1学年2学級以上

● 適正配置(学校の場所の目安)

基準	小学校の通学距離	中学校の通学距離
文部科学省	概ね4km	概ね6km
旭市	通学時間を考慮し、通学手段を検討する	概ね6km

小中学校の再編

刻々と変化する激しい時代の中で、将来の旭市を担う子どもたちに「いきる力」「郷土を愛する心」を育める教育環境の充実を図り、子どもたちが学びやすい学校づくりを進めていきます。

今後、小学校を15校から7校に、中学校を5校から3校に再編することを推進していきます。くわしくは市ホームページ(<https://www.city.asahi.lg.jp/soshiki/28/12573.html>)をご覧ください。

現在の学校数

小学校 15校
中学校 5校



再編後の学校数

小学校 7校
中学校 3校

次回(9月15日号)では、学校再編のスケジュールや跡地活用方法などについて紹介します。

「あさひ輝いた人々」は休載します。